

## アユが育つ川

美山川・大堰川・細野川（八木町流域）では毎年4月から5月にかけて稚アユが放流されます。そして6月上旬にはアユ釣りが解禁され、釣りを楽しむ人でにぎわいます。

アユは琵琶湖などで、ある程度成長したものを仕入れて、美山川では美山漁業協同組合が、大堰川では大堰川漁業協同組合が、細野川では上桂川漁業協同組合が放流をされています。

放流されたアユは、最初は6センチから10センチ程度のものですが、川底



▲友釣りで釣れたアユ（昨年の美山川の解禁日に撮影）



▲毎年夏には多くの釣り客が訪れます（美山川）

のコケを食べながら大きくなり、6月のアユの友釣りの解禁時には20センチを超えるまでに成長します。アユは、体を覆う粘膜に香りが

あることから別名「香魚こうぎょ」と呼ばれます。この香りは、アユが食べるコケによって違くとされており、きれいな川のコケで育ったアユは良い香りがするといわれます。南丹市の清流で育ったアユは非常に良い香りがするとされ、地元の料理店などでは、初夏から秋にかけて旬の食材として観光客の舌を堪能させてくれます。

### 川づくりは人づくりから

漁業協同組合は、アユやアマゴなどの稚魚放流や育成保護、遊魚券の販売や遊魚監視、河川環境の保全に至るまで、さまざまな役割を担ってられます。

「この美しい川を次の世代に受

# 育むもの

・アユが育つ川  
・川づくりは  
人づくりから



▲地域の子どもたちも放流に参加

け継いでほしい。そのためにもっと子どもたちに自然を感じてもらい、川のことを知ってほしい」と美山漁業協同組合の上林實組合長。昨年は地元の小中学生を対象に「雑魚釣り教室」などを行われました。

児童たちは手作りの竹ざおを使って、エサのミミズでウグイなどの魚を次々と釣り上げました。これは、美山漁業協同組合が主催する「美山川活性化プロジェクト」の一環として、昨年度から行われています。子どもたちにもふるさとの清流に親しんでもらうことで、将来にわたって地域の河川環境を守りたいという思いで始められました。今年度も、4月の下旬に稚アユの放流を、地元の市立知井小